

2023 年度:こども園自己評価の報告書

野田こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	園内研究のテーマ「あそびを通して一人一人が輝き友達と豊かに関わる力を育む」を基に教育保育を進めてきた。アドバイザー研修では子どもを理解するときに子どもの姿から何故このような行動をとるのか、どう考え対応したらいいのか分析して知ることができた。 わらべ歌遊び、身体を使ったリズムあそびの研修では、子どもと1対1でしっかり目を見てふれあうことで子どもが安心感をもち、繰り返し遊んでいく中で子どもからの気づきが出てきて学びにつながることを知り、実践してきた。また、1つの運動ができるようになるために必要な身体の部位を刺激する遊びを理解し取り入れていくことが大事だと学んだ。
健康支援	・コロナが5類になったが、園内の消毒やおもちゃの分別などの感染症対策は引き続き行った。 ・毎月、身体計測を行い、身体発達曲線を参考に一人一人の子どもの成長を確認した。また、各種検診を行い受診後、詳しい検査が必要な子どもには保護者に受診を勧めた。
安全指導・危機管理	・毎月の安全点検を実施し修繕修理は速やかに行った。 ・豊中南警察職員による交通安全教室を実施し、道路、踏切、信号の模型と、疑似道路による歩行体験を行い、交通ルールを確認出来た。 ・水消火器を用いて職員、野田センター職員、地域福祉委員と合同で総合訓練を行った。
食育の推進	・幼児クラスは園庭の畑と旧野田小学校の畑を一部借りて菜園活動を行い、乳児クラスは子どもたちにとって身近な2階のテラスで行った。 ・季節に応じて厨房前で野菜や果物の栄養についてイラストを用いて紹介した。 ・「春の集い」では厨房職員から豆の話を聞き、玄関でもやしを水栽培し、大豆からもやしができる様子を興味深く園児が観察していた。
子育て支援（在園児および地域）	・感染症対策のため制限していたクラス懇談、個人懇談も年間2回ずつ行った。また、送迎時に職員から保護者に子どもの様子を口頭で伝えるなど、保護者が寄り添いやすい雰囲気づくりに努めた。 ・いるか、こぐま、みつばちなどの事業も園児と地域の親子の遊びの交流しながら行った。歌や体操を披露し地域の保護者に褒めてもらう機会を多く持つことができ、園児にとってうれしい経験ができた。地域の保護者は、園児同士のトラブルや協力している様子を見ることができ喜んでおられた。
インクルーシブ教育保育	・大阪府立支援学校や児童発達支援センターの巡回指導でアドバイスを受け、一人一人の子ども理解を深め発達に応じた必要な支援に努めた。クラスの中では子どもたちが一人一人の気持ちの表出方法に違いがあることに気づきながら生活や遊びを楽しんでいくことを大切に教育保育してきた。

職員の資質の向上	・アドバイザー研修の講師からの助言で自主性と主体性のちがいを理解し、子どもの主体性を引き出す遊びの工夫の必要性を学んだ。また、子どもの発達の特性を学び一人一人の子どものに寄り添った教育保育の重要性を学んだ。 ・不適切保育についても研修を行い、チェックシートを用いて日々の子どもへの関わりや言葉かけについて振り返った。 ・各クラス公開保育を行い、共に育つ保育の視点から育ってきたところや課題を共有した。
幼保こ小中の連携・接続	・幼保こ小連絡協議会に参加し「気になる子どもとともに仲間づくりで大切にしていることは」をテーマに話し合いを行った。どの園も子ども同士が話し合うことで、お互いの考えを伝え合うことを大切にしていることが確認できた。 ・5歳児が近隣の公私立のこども園、保育園と交流を持つことができた。交流することで、初めて出会った友達と楽しく遊ぶことができ、同じ小学校に就学する友達にも出会い、良い経験になった。
評議員会	・3回の評議員会で乳児クラス、幼児クラス。地域支援事業を見ていただいた。乳幼児期に子ども同士で関わり合う中で、思考力、自主性、社会性などが育ち、それが学童期の学習や友達関係を築いていくときの力になっていくことを確認できた。そのため、こども園での取り組みは子どもの成長にとってとても大切だと評価をいただいた。
その他	・配信アプリを使い、写真を使うなどわかりやすく保育内容を伝える工夫をして、クラスの取り組みを保護者に配信した。実際の取り組みを写真で見ることができ、保護者にも一定の評価をいただいた。 ・今後、取り組みのねらいや目的、子どもの育った力なども発信していきたい。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
保護者へのアピールを工夫する	・行事の取り組みの経過や、日々の活動をクラスだより、クラスノート、配信アプリによる発信で、園が大切にしている取り組みが将来子どもたちの成長発達にどうつながっていくのかなど保護者に伝える。また、友達と一緒に生活し遊ぶ中で「共に育つ」保育を大切にしていることをアピールしていく。
こどもの主体性を引き出す環境について	・保育教諭が一人一人の子どもの思いを受けとめ、主体的に活動できる環境を整える。 ・絵本、手遊び、運動遊びなどで子どもの主体性を引き出す工夫を積極的に行う。

令和6年（2024年）3月31日
 豊中市立 野田こども園
 園長名 百田 寿美子